

<商学部の紹介>

商学とは、商品の生産・流通・販売など、ビジネスの様々な側面を研究して、実際に役立てるための学問といえます。商品が生産され、消費者の手に届くまでには、通常、流通・運送・販売などの過程を経るのですが、それらの仕組みやメカニズムの分析を行います。またそれにとどまらず、マーケティング、貿易などの国際取引、銀行・保険・証券などの金融分野を研究対象としています。さらに会計学や簿記等ビジネスにおいて必要とされている知識を学ぶこともできます。

主な就職先としては、百貨店、スーパー、商社などの流通・銀行・保険等の金融が多いですが、他にも広告系への就職も多いです。また資格試験を受けて、公認会計士や税理士、公務員を目指す人もいます。

<シグマ講師による学部紹介 緑地公園駅前校 沼田先生>

1.所属学部・学科:商学部

2.専攻:企業のM&A

3.専攻についての詳細:

商学部と言われても、実際どんな勉強をしているのか思いつかない人が多いと思います。私も初めて商学部と聞いた時は、「あまりメジャーではなさそうだし、地味な学部かな」と思いました。しかし、商学部の授業は世の中の実際のビジネスに直結していることが多く、とても興味深いものです。

普段皆さんが気付かずに抱えている商品への購買欲(簡単に言うなら好きな商品)は、売り手側の販売戦略によって作り上げられている部分があります。その売り手側の戦略を研究したり、シミュレーションしたりするのが、商学部の勉強です。それでは、例を挙げてもう少し詳しく話しましょう。

皆さんもよく知っているグリコのポッキー。コンビニやスーパーなどでも色々な種類を見かけますよね。この色々な種類が作られた背景には企業の販売戦略があるのです。

まず、売れる商品を考える際には、ターゲットを絞ることが大切になってきます。なぜなら、ターゲットによって「好きなもの」が異なるためです。ターゲットが確実に「買いたい」と思う商品を作るために、消費者が「ほしい」と思っているものが何なのかを把握するのがマーケティングというもので、これも商学部で学べるものです。たとえば、やはり大人と子供では少し嗜好も違うことに目をつけ、グリコは大人向けのムースポッキーと子供向けの普通のポッキーに分けました。そこにもいろいろ工夫があります。ムースポッキーは大人向けということで、パッケージはシックに、そして高級感あふれるデザインにしました。また、店に陳列される棚も、大人が見やすい上の方に置かれています。一方、子供向けポッキーは、味もミルクやイチゴなど、子供に人気の味を中心に展開し、パッケージもかわいい牛やイチゴが描かれました。陳列されている棚も子供が見やすい下の方に置かれているはず。一度、近くのコンビニやスーパーなどで見てみてください。

このように企業は商品をただ作るだけではなく、売るために色々なことを考え、販売していています。そういった実際の企業の販売戦略やマーケティング、広告戦略等を商学部では学ぶことができます。しかし、もちろんこれらは商学部の勉強のほんの一部です。他には、海外との貿易などに関する勉強、税理士・公認会計士になるための勉強、会社を経営していくための勉強など、いろいろあります。簡単に言うと、商売をするために必要な知識・実務能力を得るところが商学部だと思ってください。

4.卒業後の進路

卒業生の多くは民間企業に就職します。残りの1～2割の人たちは税理士や会計士などの資格を目指し勉強しています。

5.取得可能な資格

商学部の卒業と同時に自動的に取得できる資格はありません。しかし、税理士や公認会計士になるために必要な、基礎的なことを学ぶ授業はあります。